

私鉄車両めぐり 第9分冊

鉄道ピクトリアル1968年7月号・臨時増刊 通巻第212号

表紙 初冬の尾小屋鉄道……………阪倉 信男

グラフ

十和田観光電鉄 [1] ……………	3
" [2] ……………	114
夕張鉄道……………	4
花巻電鉄……………	6
上武鉄道……………	8
近畿日本鉄道北勢線……………	10
能勢電気軌道……………	107
尾小屋鉄道……………	108
一畑電気鉄道……………	110
山陽電気軌道……………	112
私鉄車両めぐり<第9分冊>掲載私鉄分布図	

記事

①夕張鉄道……………	小熊 米雄…………11
②十和田観光電鉄……………	白土 貞夫…………37
③花巻電鉄……………	吉川 文夫…………27
④上武鉄道……………	高井 薫平…………46
⑤近畿日本鉄道北勢線……………	白井 良和…………55
⑥尾小屋鉄道……………	宮沢 元和…………65
⑦能勢電気軌道……………	藤井 信夫…………76
能勢電気軌道の“幻の電車” ……	青木 栄…………85
⑧一畑電気鉄道……………	京都大学鉄道研究会…………86
一畑軽便鉄道ノート……………	青木 栄…………45
一畑電気鉄道車両の変遷……………	和久田康雄…………95
一畑電気鉄道の蒸気機関車……………	小熊 米雄…………106
⑨山陽電気軌道……………	谷口 良忠…………96

「私鉄車両めぐり」<第9分冊>をおくる

今回の第9分冊には、久しぶりに9社の私鉄をとりあげることができた。沿革の複雑なものが多かったにもかかわらず、各筆者とも要領よくまとめていただいたおかげと感謝にたえない。実をいえば、前回・前々回の分冊においても、9社以上の候補をあげていたが、種々の事情で間に合わないものや、適当な筆者の得られないものがあつたため、結局8社に落ち付いたのであつた。

9社のうち、能勢・一畑の両社は「知られざる私鉄」および「私鉄車両めぐり」としてすでに掲載済みであるが、前者はその後現有車両が一変し、後者も大幅に車両が変化したほか、電化以前の車両については未紹介であつたため、ここに再度の登場となつたことは御了解いただけよう。

筆者は、8人の常連にそれぞれ得意の方面を担当していただいたほか、分冊としてははじめて、大学の鉄道研究会に共同執筆をお願いした。前々回の分冊巻末で青木栄氏が学生のクラブを大いに叱咤激励されたが、それに対する無言の回答として、今回の京都大学の方々の研究を得たことは喜ばしい。なお、原文には、廃止された広瀬線および立久恵線に関する記事も含まれていたが、

これはむしろ「失われた鉄道・軌道を訪ねて」のシリーズでとりあげるのが適当であるため、その方へ廻させていただいた。

この第9分冊により、現存の中小私鉄は特殊鉄道を除いてほとんど全部「私鉄車両めぐり」に掲載済みとなつたが、なお残されたものと再掲を要するものがあり、引きつぎ刊行を要望される向きも多かろうと思われる。

しかし私鉄車両めぐり分冊は、回を重ねるにしたがつて、一般的傾向として記事密度が濃くなり、それだけ各方面から注目され、利用されつつあることは、本分冊発行の意義もあり喜ばしいわけであるが、残る十何社の分は年刊として引きつぎ明年一気に刊行できるかどうか仲々容易ではあるまい。あるいは、1年ぐらゐの余裕をとって明後年あたりに、第10分冊を完結編とする段取となるのではないかと考えているが、ご協力をいただければ幸いです。

〔表紙〕「初冬の尾小屋鉄道」 阪倉 信男
尾小屋鉄道キハ2 金平にて 42-12-30

ニコンF ニッコール 50mm F1.4 絞り8 タイム1/250
ネオパンSS